内海ITU事務総局長

ジュネーブ便り

（2005年2月）

◎内海事務総局長から

理屈だけを述べて行動の伴わない人をよく評論家と呼ぶが、今回各国から認められたデジタル連帯基金の話でも、本当に評論家は何の役にも立たないことを思い知らされました。

ジュネーブ州の元大統領であるセコンド氏から、ICT機器購入額の1パーセントの寄付を基にICT援助のためのデジタル連帯基金の設立を提案されたとき、そんな夢のような案は成立するはずがないと思ったが、取りあえず進めてみてはと助言した。彼は、セネガル大統領を説得し、大統領は、アフリカ諸国の支援の下、その案の実現を強く推進し、情報社会サミットの中心議題になったのは、御案内のとおり。

どのように進めたらよいのかと相談に来たセネガルの大統領顧問にも、サミット過程での議論はともかく、先行発車で賛成者だけで設立すれば良いと、無理だと思いながらも、助言した。そして彼らは、それを本当に実行したのである。

かたや、サミットの過程では、先進国をはじめ多くの国や代表は、延々と議論を繰り返し、国連事務総長の下に調査タスクフォースまで設立して、議論を継続したが、確たる結論には至らなかった。恐らくこれらの議論に費やした経費は総額で数十億円を下らないだろう。

しかし、今回の第2回サミット準備委員会では、現実に設立されてしまった基金を認めざるを得なかったのである。

基金は、ジュネーブ市やリオン市などの都市だけでなく、既に十指に余る国からも基本財産の寄託を受け、まだ議論に費やした経費の半分にも達していないと思われるが、3月14日、4人の国家元首と数十か国から大臣の出席を得て、盛大に設立祝賀会を挙行した。私もそこでお祝いのスピーチをする栄を得たのである。

◎2月の事務総局長の主な動向

2月2～4日　WSISアフリカ地域会合（アクラ：ガーナ）

WSISに向けてアフリカ諸国の意見をまとめるWSISアフリカ地域会合がガーナ政府の主催で開催され、クフォール・ガーナ大統領と共にオープニングスピーチを行いました。1月にアナン国連事務総長のタスクフォースから、デジタル・ディバイド解消のための財政メカニズムに関するレポートが提出されましたが、2月下旬のPrepcom2での議論のベースとなる財政メカニズムに関する文書の調整が難航していました。そのため、同会合には、アフリカ諸国以外にも先進国から専門家が出席して、デジタル連帯基金の可能性について議論しました。アフリカ諸国のデジタル連帯基金を実現させたいというハイレベルの政治的意思と、ジュネーブに設置されたデジタル連帯基金関係者の十分な説明などが功を奏し、デジタル連帯基金を歓迎するという大きな流れが合意されました。

デジタル連帯基金を実現させようとするアフリカ諸国の強い連帯の感じられる会議でした。

2月14～18日　国連インターネットガバナンス作業部会（WGIG）（ジュネーブ）

同会合はアナン国連事務総長の下に設置された40名の専門家から成る作業部会で、WSISジュネーブフェーズで引き続き検討とされたインターネットガバナンスについて検討し、その結果をWSISチュニジアに入力することを目的としています。昨年12月に前回会合が開催されましたが、議論の焦点が定まらず、ドメインネーム、IPアドレス、スパム、セキュリティ、知的財産、パブリックポリシーなど多くの論点が議論され、議論の収拾が難しい状態でした。

そのため、今回の会合では、今後の活動としてドメインネーム、IPアドレス及びルートサーバーの管理、スパム、セキュリティを優先的に議論していくとの大きな整理が行われました。

議論の内容が専門的で、また政治的関心も高く、ややもすれば議論が発散しがちなインターネットガバナンスですが、今後の検討の方向性が見えてきたことから、7月に予定される最終レポートに向けて議論が本格化することを期待しています。

2月17～25日　WSIS第2回準備会合（Prepcom2）（ジュネーブ）

欧州国連本部において、政府、民間、市民社会などの代表約1,700名が出席して開催されました。今回会合は、11月のWSISで採択される事項のうち、財政メカニズムと、WSIS後のWSIS行動計画の実施体制について合意形成することがねらいでした。

財政メカニズムは、先のアフリカ地域会合の結果もあり、デジタル連帯基金について自発的なもので既存のメカニズムを補完するものとして、各国が歓迎することで合意しました。このような早い時期に、本件が合意形成されたことは、WSISに向けたモメンタム形成に大きな効果があるものと期待します。

WSIS行動計画の実施体制については、行動計画に沿って実施される各国連機関や関係者の活動を全体管理するメカニズムに議論が集中しました。この全体管理の役割を果たす機関として、ITU、国連本部、又は各関係者が参加できる新たな組織などの案がありますが、WSISをこれまでリードしてきた国連機関でありICTを担当する国連機関でもあるITUが担当すべきとの意見が多くの国から支持されました。また他方、過去に行われた環境サミット、持続可能な開発サミットと併せて国連本部が担当すべきという意見もあり、9月のPrepcom3で引き続き検討することとなりました。WSISでの議論を実現化するためにも、実施体制の整備は重要な課題です。

春を待つルッツエルンのカーニバル　撮影：内海善雄